

●浜の話題

- 8月21日、三和漁協城ヶ島支所と城ヶ島ダイビングセンターで構成される「城ヶ島地域藻場保全活動組織」は、6月から実施してきた今年のアイゴ除去活動を終了しました。この活動は、漁場に刺網を一齐に仕掛けて植食性のアイゴを除去することにより藻場の回復を目指すもので、今年は6回の作業で合計442尾、244.1kgのアイゴを捕獲しました。アイゴは例年6～7月頃が主産卵期ですが、8月に捕獲された個体はまだ生殖腺が発達したものが多く、この除去活動によりアイゴの繁殖が抑制されたものと考えられます。
- 9月上旬、横須賀市大楠漁協青年部会は、新型コロナウイルスの影響で魚価が低迷しているなか、漁家収入増加に向けた取り組みの一環として、同漁協のブログで「佐島の地魚」の販売促進のための情報発信を行いました。このブログには、かながわブランドやプライドフィッシュ（各都道府県の漁連、漁協が季節ごとに選定した魚）等に選定されている「佐島の地だこ」や日戻りカツオ（漁獲当日に水揚げされたカツオ）等の地魚の魅力のほか、地魚を販売する漁業者の直売所7軒、地元鮮魚店5軒や佐島の地魚を取り扱う料理店23軒の情報等が掲載されていますので、皆様ぜひご活用ください。
- ・横須賀市大楠漁協ブログ「佐島の地だこ★地魚情報局」URL：<https://sea.ap.teacup.com/sajima/>



佐島の地だこと日戻りカツオ

- 9月5日、県水産課は横浜市中区の神奈川県民ホールで「令和2年度神奈川県漁業就業セミナー」を開催しました。第1部の座学セミナーでは、二宮町の漁業者から漁業就業の体験談について、また横須賀市安浦地区と市鴨居地区の漁業者からは自らの漁業の取組みについてそれぞれ説明があり、漁業就業に興味を持つ21名の参加者はみな熱心に聞き入っていました。つづく第2部では新規就労者を募集する漁業者と、漁業現場への就労を希望する方とのマッチング会が行われ、参加者はみな真剣に就業条件等の話を聞いていました。



セミナーの様子

- 9月7日、本県のしらす船びき網漁業者で組織する「神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会」は、かながわブランド販売促進支援事業を活用して「湘南しらすPRのぼり」を作成しました。のぼりには、かながわブランドとプライドフィッシュのマークが表示されており、漁業者の直売所や出荷先の料理店等で掲示され湘南しらすのPRに活用されています。



湘南しらすPRのぼり

- 9月11日、本県の定置網漁業者で組織する「神奈川県定置漁業研究会」は、県小田原水産合同庁舎で特別研修会を開催しました。当日は（一財）東京水産振興会の長谷成人理事（元水産庁長官）を講師に迎え、「水産業をめぐる環境変化と定置漁業の今後について」という題で講演が行われました。その後、出席した定置網漁業者との意見交換が行われ、有意義な研修会となりました。



研修会の様子

●お知らせ

- 9月14日、当センター栽培推進部は2020年漁期の沿岸サバ予報（確定報）を発表しました。これは6月の速報発表後のデータを加味して予測精度を高めたもので、「今漁期のマサバ漁獲量は前年を上回り平年並、魚体は尾叉長31～33cm（体重340～440g）が主体になる」と予測しています。詳細は当センターHP（下記URL）をご覧ください。

・さば予報URL：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p1167228.html>